



『神都名勝誌』より

ふるさとの風

～皐月～

にぎたえ あらたえ 和妙・荒妙 —皐月 かんみ そさい 神御衣祭—

“神御衣”とは神様の衣のこと。和妙は絹・荒妙は麻。伊勢神宮では毎年春と秋、天照大御神に和妙と荒妙を、御糸・御針などの御料と共にお供えする神御衣祭が行われています。神御衣祭は神嘗祭と共に古くからある特別な由緒ある重儀のお祭りとしてされています。内宮の正宮と第一の別宮荒祭宮でのみ行われる特別な祭典で「儀式帳」や「大神宮式」にも詳しく記されています。五月と十月にあるため“神様の衣替え”ともいわれますが古くは神嘗祭の当日に神御衣が供えられていました。

和妙衣は服部氏、荒妙衣は麻績氏、各自ら潔斎して祭月の朔日より

始めて織り造り、十四日に至りて祭りに供へよ —延喜式—

和妙は松阪市郊外に鎮座する^{かんはとりはたどの}神服織機殿神社（下機殿）で女性の織子、荒妙は^{かんおみはたどの}神麻績機殿神社（上機殿）^{かみはたでん}で男性の織子によって奉織され両機殿の起源は「倭姫命世紀」にも記されています。

五月一日 清くうるわしい奉織を祈念する神御衣奉織始祭、

五月十三日 滞りなく奉織できたことを感謝する神御衣奉織鎮謝祭が行われ、

^{から}辛（唐）^{ひつ}櫃に納められた神御衣は内宮へと運ばれます。

かつては御塩と同様、衛士二人が辛櫃を乗せた駕籠を担ぎ、両脇を神職に見守られながら夜通し三十キロの道を徒歩で神宮に運んだそうです。御塩にも御塩道があったように神に捧げる神御衣にも決められた道がありました。それが神御衣の道です。

そして五月十四日神御衣祭—

二つの機殿で織られた四丈（十二メートル）の和妙・荒妙が奉られます。

- ◆ 神宮要綱 （神宮司庁／編纂 神宮司庁 L174／ジ）
- ◆ 伊勢神宮の衣食住 （矢野憲一／著 東京書籍 L174／ヤ）
- ◆ 御機殿畧起 （荒木田経雅 山形屋傳右衛門 L174／ミ）
- ◆ 倭姫命世紀注釈 （和田嘉寿男／著 和泉書院 L174／ワ）

図書館だより
2010年5月号より